

樽前山

○地磁気全磁力

2011年10月20-21日に引き続き、2012年6月13日に磁気測量を行い、8ヶ月間の全磁力変化を求めた(図1)。主要な2地点については時系列グラフも示す(図2)。前回の報告と同様に、帯磁傾向が継続している。観測された変化パターンは磁気双極子でよく近似され、溶岩ドーム直下の約400m深付近で冷却が続いていることが伺える。この帯磁傾向は、2009年頃から続いている溶岩ドーム付近各火口の噴気量増加や高温化に対応している可能性がある。

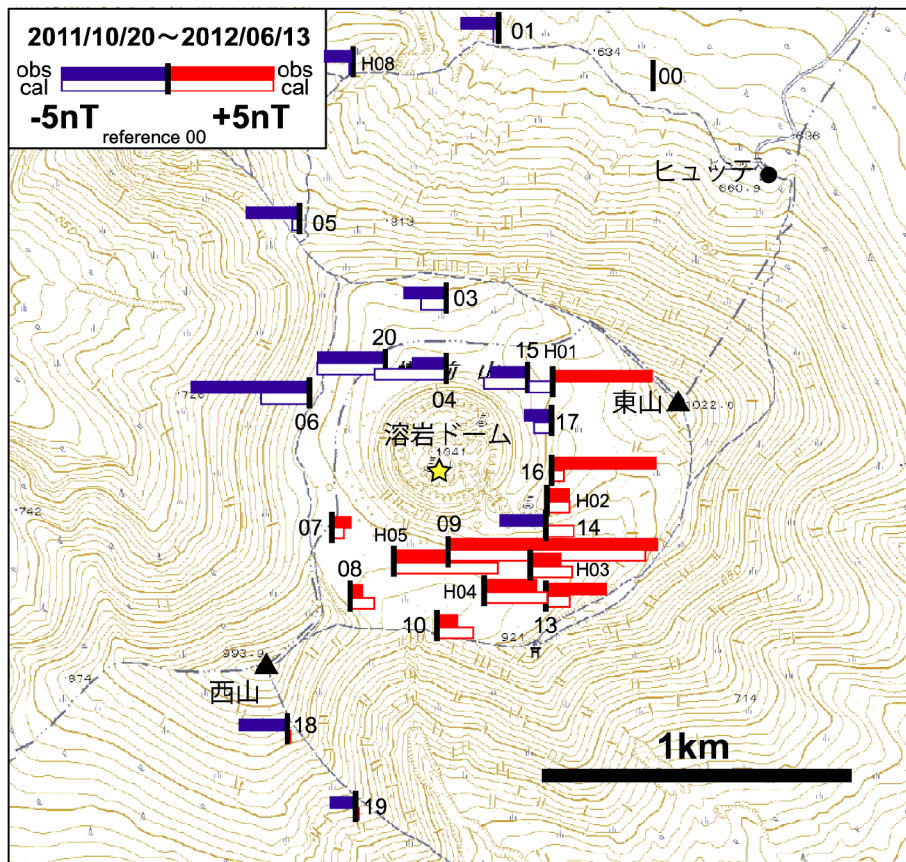


図1. 2011年10月～2012年6月の全磁力変化。白抜きは磁気双極子による計算値(ソース位置は★で示した)。

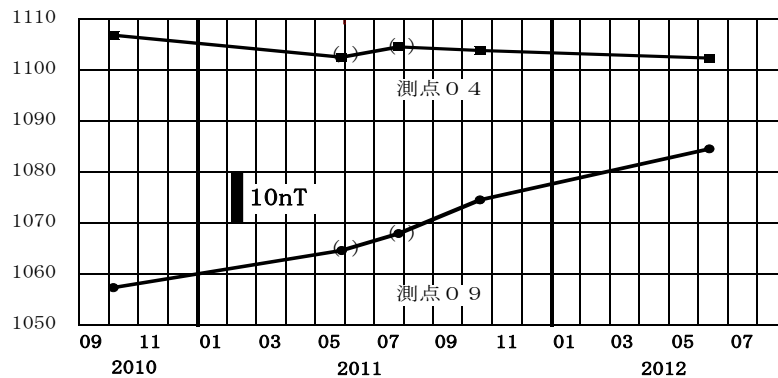


図2. 測点04と09の全磁力変化時系列(参照点は00地点. 括弧付きは参考値)

(橋本・鈴木)